

低学年提案

研究主題

「Let's try communication more!」～児童が主体的に取り組む外国語教育の創造～

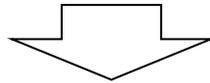
目指す児童像

簡単な表現や言葉を用い、友達と楽しく関わり合える子ども

☆2年研究授業 外国語 単元名『体であそぼう』

2年生児童の実態

- 外国語の歌に合わせて体を動かすことや、外国語に関する制作活動を好み、意欲的に取り組んでいる。
- 英語を話したいという気持ちはありながらも、話していることがわからなかったり、話す経験が少なかつたりすることから、意欲的になれない様子が見られる。



- 英語の歌に合わせた身体表現や制作活動など、楽しんでできる活動内容を工夫し、自然に英語を話す場面を多く設定することで、意欲的に児童は取り組むようになるであろう。

「児童が主体的に取り組む」ための手立て

(1) 身近な表現や言葉に慣れ親しむ

○外国語に慣れ親しむための導入の工夫

「歌」に身振り手振りを付けながら歌い、楽しみながら身近な表現や言葉に慣れ親しむことができるようにした。また、毎時間の導入に、単元に関する絵本の読み聞かせをし、絵と英語の表現を結び付けたり、単元の内容にスムーズに入ることができたりするようにしていく。

○言葉や表現の掲示の工夫

絵に単語が書かれているカードを使うことで、自然に目から情報が入るようにした。また、給食の時間に英語の動画を見せることで、耳から英語を聞く機会を多くし、語彙を増やすようにした。

(2) 自分の思いを伝え合う

○児童にとって必然性のある活動内容の工夫

「テディベアの絵を完成させるためにパーツを集める」ことを目的とした活動を設定したことにより、児童に興味関心をもたせようとした。また、パーツ集めのために、必然的に児童同士がコミュニケーションをとれるように場を設定した。

本時のポイント

- ・テディベアを作るために、お店屋さんごっこで体のパーツ集めをする活動は、児童の主体的な活動を促す上で有効であったか。